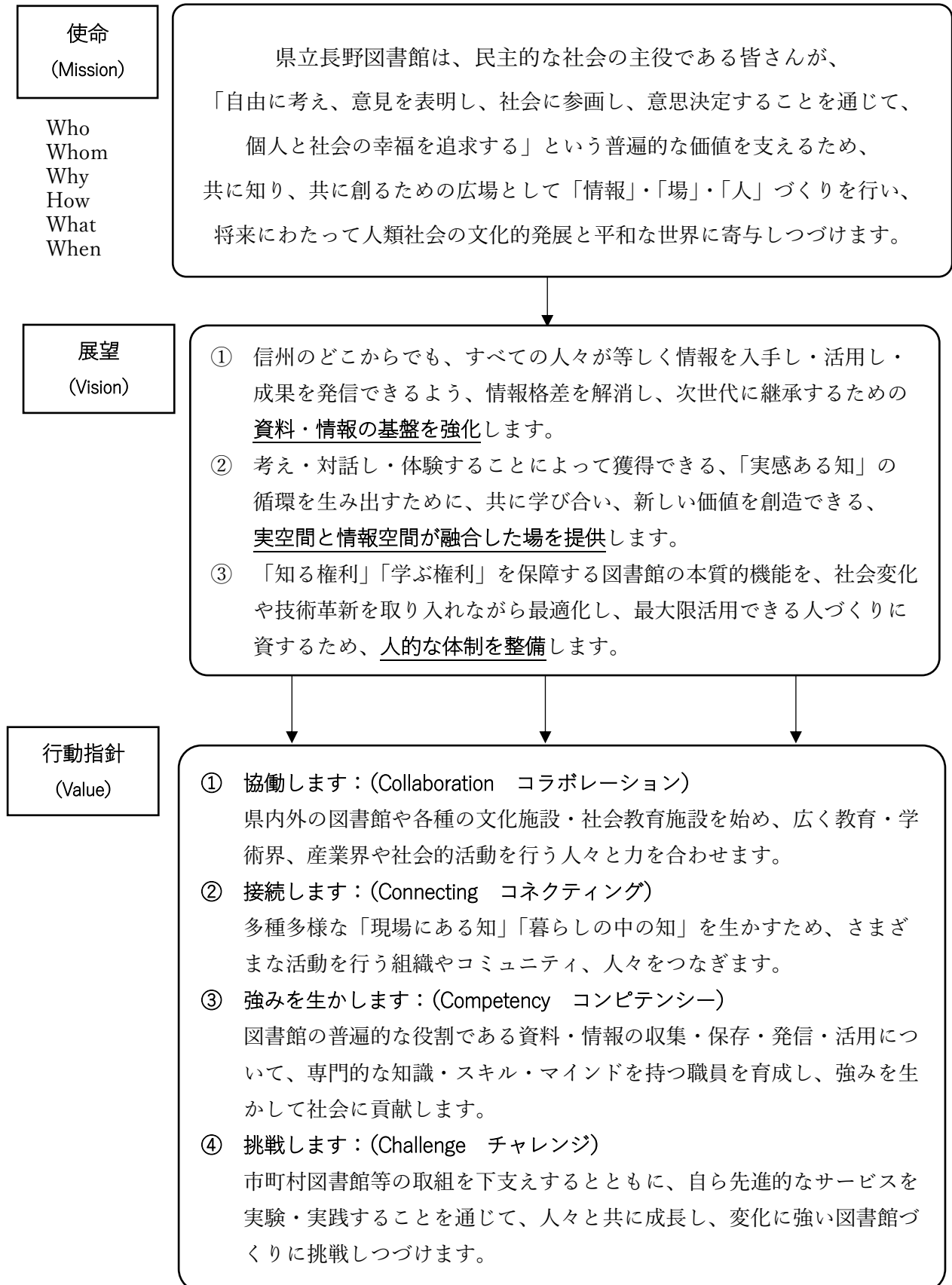


## 「共知・共創の広場」としての県立長野図書館の使命（仮称）

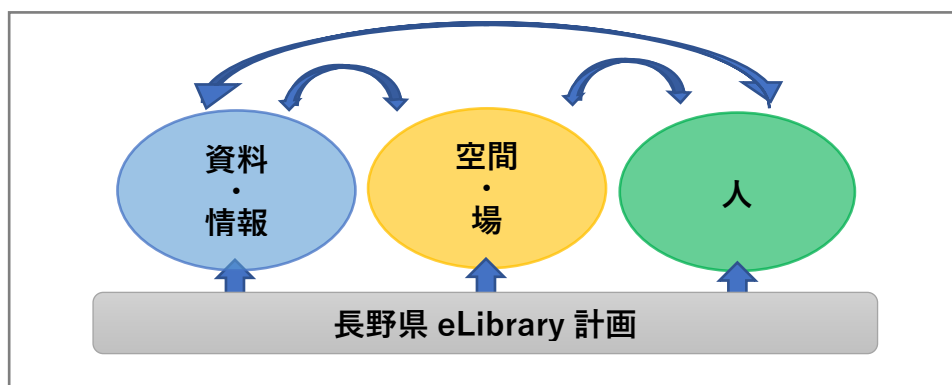


行動計画  
(Action Plan)

2020年から約5年間の取組を「図書館進化事業」と位置づけ、過去5年間の「図書館改革事業」で構築した枠組みを進化（深化）させます。

「展望（Vision）」に掲げた3つの項目「資料・情報」「空間・場」「人」について、

- 「整える」「活用する」「広める」というプロセスを踏みながら、県立図書館としての役割を果たします。
- 事業・サービスを有効に展開する手段として、長野県 eLibrary 計画を推進します。



**1. 資料・情報：**いつでも・だれでも・どこからでも「知る・学ぶ」ための「資料・情報」を、媒体にかかわらず、積極的に収集・保存・活用・発信できる情報基盤を進化させます。

<重点事項>

● **蔵書（資料・情報）の構築・配置計画の見直し**

紙媒体を中心とする既存資料を最大限活かすための「利用」と、長野県唯一の県立図書館の責務として、長野県（信州）に関する資料、長野県（信州）で生産・所蔵されている資料を次世代に確実に継承するための「保存」を、戦略的にバランスよく行うため、県内外の関係機関との役割分担を行いつつ、蔵書構築・配置計画を見直します。

● **「信州ナレッジスクエア」の拡充**

「信州ナレッジスクエア」により、長野県（信州）に関する資料・情報、長野県（信州）で生産・所蔵されている資料・情報を、確実に収集・保存し、いつでも・だれでも・どこからでも活用・発信できるように、デジタルの形で整えます。

既存のコンテンツを拡充するとともに、6つ目のコンテンツとして、新たに「長野県リポジトリ（仮称）」を立ち上げ、長野県で生産される知的生産物を収集・保存・発信できる仕組みを提供します。

● **「電子ブック」の導入・拡充**

災害時でも学びが継続できる手段を確保し、図書館利用の地域的・身体的なバリアフリー化を実現するために、ICTによる付加価値のある学びのコンテンツとして、市町村図書館と連携した全県的な電子ブックの導入・拡充を進めます。

第一段階として、電子ブックサービス提供者・図書館等による実証実験を行い、電子ブック導入のハードルを下げ、効果を最大限引き出します。

**2. 空間・場：**実空間である図書館の1～3階の各フロアと、情報空間にある「信州 ナレッジスクエア」を核として、それぞれの強みを生かしつつ、融合させながら、知的活動が展開される「場」を進化させます。

<重点事項>

● **1階 児童図書室・2階 一般図書室における「新しい発見・学び」のプログラムの展開**

図書館というフィールドを「新しい出会いと発見が促される場」と捉え、児童図書室、一般図書室のあり方を引き続き検討し、実験・実践し、プログラムとともに展開します。

● **3階「信州・学び創造ラボ」における「共に知り、共に創る」モデルの展開**

図書館を新しい公共空間と捉え、「自治と公共」を考え、実践するための実験を継続・発展させるため、運用方法に関するオープンな対話の場を設けます。

試行錯誤が容易な「学びのツール」として、ものづくりラボをさらに活用し、コミュニティや関係機関とも協働しながら新たな学びの仕組みを拡げていきます。

コミュニケーションの道具として ICT を利活用するためのスキルが得られる機会・場を企画・提供します。

● **「信州ナレッジスクエア」の活用**

各コンテンツの特色を生かしながら、生涯学習や探究学習の場、信州知の連携フォーラムなどで活用します。実空間と情報空間を組み合わせた新たな学びによって、「体験」が生まれ、新たに創り出された「知」が蓄積・循環・成長していく「場」へと育成します。

**3. 人：**潜在的な利用者を含めた、全ての県民の学び合い・知的な活動を支えるため、市町村図書館や関係する文化施設・教育機関、県内外の関心を共有するすべての人々との協働を通じて、進化を促します。

<重点事項>

● **「これからの公共図書館研究会」の実質的な活動**

「図書館サービス計画」、「学校支援（学校連携）」、「デジタル活用」「資料活用・レファレンス」などの共通する課題を抽出し、協働で解決策を考え・実践し、各館の運営に生かします。

● **「これからの図書館フォーラム」のさらなる展開**

図書館における「知る・学ぶ」リソースは、資料・情報だけではなく、図書館に集い、関わり合いを持つすべての「人」もリソースです。あらゆる年代、あらゆる立場の人と人、人と情報とが出会い、活用され、発展する場を継続的に企画・実施します。

● 「信州 知の連携フォーラム」の一層の推進

長野県における知と学びに関わる各種機関が、信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていくことを目的とした「信州 知の連携フォーラム」をさらに発展させ、「信州ナレッジスクエア」で実現した「電子情報の共有化と発信」の基盤を活用することで、「新たな人材育成」をより一層進めます。

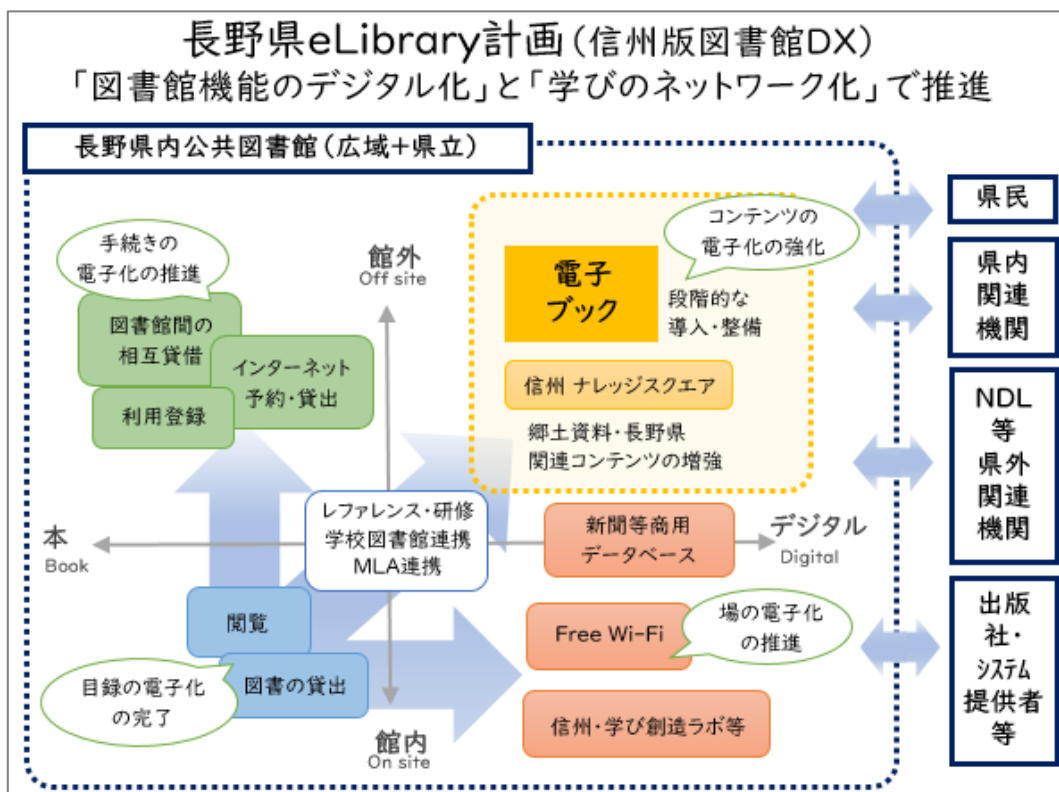
**4. 長野県 eLibrary 計画：**図書館の機能を「紙」と「デジタル」、「館内」と「館外」の軸で4分類し、それぞれのカテゴリでさまざまな関係者と協働しながら、最適な方法でデジタル化を進めます。この取組は、「ITの浸透によって、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」考え方として、長野県でも取り入れられつつある、デジタル・トランスフォーメーションの図書館における実践と位置づけます。

● 図書館機能のデジタル化

- 「紙の本×館内」 → 目録のデジタル化の完了
- 「紙の本×館外」 → 手続き・サービスのデジタル化の推進
- 「デジタル×館内」 → 場のデジタル化の展開
- 「デジタル×館外」 → コンテンツの電子化の強化

● 学びのネットワーク化

ICTを活用したネットワークと、人と人との関係性を繋ぐネットワークによる学び合いや、情報リテラシー獲得の機会を作ります。



## ※補足資料：「共知共創の広場：県立長野図書館の使命」（仮称）作成の意図

- 前平賀館長時代の改革事業（2015年～2019年）は、「情報」の改革、「人」の変革、「場」の革新という、3つの柱で推進されました。館長職を引き継ぐにあたり、改革事業で目指した方向性を継承し、発展させていく拠り所として、「県立長野図書館の使命（仮称）」を策定することとしました。
- 基本的な考え方は、「憲法（1946年公布、1947年施行）」に基づく法体系「教育基本法（1947年制定、2006年全面改正）」「社会教育法（1949年制定）」「図書館法（1950年制定）」、日本図書館協会による「図書館の自由に関する宣言（1954年採択、1979年改訂）」、「公立図書館の任務と目標（1989年確定公表、2004年改訂）」、及びユネスコによる「公共図書館宣言（1994年）」等に基づいています。

## 構成と位置づけ

- 「使命（ミッション）」「展望（ビジョン）」「行動指針（バリュー）」「行動計画（アクション）」の4つで構成されています。
  - 「**使命**」：将来にわたる普遍的な価値を、県民への約束として表明するものです。社会変化や技術革新によっても不変の理念として、100年スパンの将来を見据えています。
  - 「**展望**」：「使命」を果たすための具体的な機能・要件を、「資料・情報」「空間・場」「人」の3つの枠組みで示したものです。おおよそ30年後の2050年（「図書館法」制定から100周年にあたる）までのスパンで考えています。
  - 「**行動指針**」は、「使命」「展望」を実現するために、図書館及び図書館職員がとるべき手段を4つの要素にまとめたものです。10年程度のスパンで考えています。
  - 「**行動計画**」は、長野県の総合5か年計画『しあわせ信州創造プラン2.0～学びと自治の力で拓く新時代～』と連動し、次期計画への橋渡しを念頭に置きつつ、現館長の任期中（予定：2020年～2023年）に実施する主な事業を列挙しました。5年程度のスパンで策定すべきものと位置付けています。  
長野県 eLibrary 計画により、「図書館機能のデジタル化」と「学びのネットワーク化」を2本の柱として情報・場・人づくりを実践し、「学びの機会を止めない環境の整備」と「次世代への継承」を目指します。

## 今後の進め方

- 2021年1月～始まる次期協議会において継続的に審議を行い、2020年度内に決定し、2021年当初に公表することを目標とする。
- パブリックコメントを募る等の手段によって、県民に開かれたものにしたい。
- 完成後、英語版も作成し、国内外に発信したい。